

専門科目【在宅看護】

授業科目名	在宅看護学実習Ⅳ <i>Practicum in Home Care Nursing IV</i>		担当教員		
開講年次	2年通年	セメスター	3・4	時間数(単位数)	90(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	この実習では、訪問看護ステーションを自ら開設した管理者のもとで実習し、訪問看護ステーションの開設・管理・運営の実際について学ぶ。また、訪問看護活動への参加やスタッフからの情報、データ分析等を通して、訪問看護の質改善に向けての課題を分析し、職場環境の整備やスタッフ教育などの具体的方策を考える。本実習では専門看護師が備えるべき6つの能力のうち、「教育」「相談」を中心に学習する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域特性を考慮した訪問看護ステーションの開設のための準備と運営方針を考えることができる。 2. 訪問看護ステーションの理念を踏まえた経営管理、人材管理の方法を理解できる。 3. 訪問看護の質評価と改善にむけて、問題点抽出のため方法を考えることができる。 4. 問題点抽出のために必要な訪問看護活動への参加やスタッフからの情報、必要なデータの収集により、訪問看護の質改善に向けての課題を分析することができる。 5. 抽出した課題に対する職場環境の整備やスタッフ教育など具体的対策を考え、提言書を作成することができる。 				
授業計画	<p>【方法】 自己の実習課題を明確化して実習施設と相談しながら実習計画を立案する。実習を通して実習指導者および教員のスーパービジョンを受ける。 具体的には、以下の6つについて、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習施設において「地域特性を考慮した訪問看護ステーションの開設のための準備と運営、経営管理、人材管理の方法」の実際を知り、その方法を理解する。 (2) 実習施設の訪問看護ステーションの管理者業務について、説明を受けた後に役割の参加観察、一部業務の実践を体験し実際の運営方法を学ぶ。 (3) 実習施設の問題点抽出のために必要な訪問看護活動への参加やスタッフからの情報、必要なデータの収集により、訪問看護の質評価と改善に向けての課題を分析する。 (4) 課題分析結果に基づき、職場環境の整備やスタッフ教育など具体的対策を考え、提言書を作成する。作成した提言書について、指導者からフィードバックあるいは議論することで、コンサルテーションの手法を学ぶ。 (5) 教育：実習期間中に実習指導者が行う訪問看護ステーションにおける看護の質の向上のための教育場面に同席し、実習指導者にその意図や具体的な教育方法について学び考察する。 (6) 相談：実習指導者が療養者や家族、ケアスタッフに行う実際の相談場面に同席し、相談内容やコンサルテーション方法について学び考察する。 <p>【実習場所】 なごみ訪問看護サービス（なごみ訪問看護ステーション、なごみ居宅介護支援サービス、なごみのデイサービス）</p> <p>【実習期間】 実習期間は、2年次を予定し、90時間とする。 実習時間は実習施設の就業時間に準ずる。</p>				
学習方法	目標に基づき、実習計画を立案する。 1週毎に学習をリフレクションし、自己課題を明確にしながらか実習をすすめる。				
オフィスアワー					
テキスト	特に指定はしない				

参考文献	<ul style="list-style-type: none">・ 日本訪問看護財団：訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル新版第3版. 東京, 日本看護協会出版会, 2016.・ 角田直枝：訪問看護は“所長”で決まる. 東京, 日本看護協会出版会, 2008.・ 日本訪問看護振興財団：なるほどわかる訪問看護ステーション経営のコツ. 東京, 日本看護協会出版会, 2010.・ 一般社団法人全国訪問看護事業協会（編集）：訪問看護実務相談 Q&A 平成 27 年度改定版. 東京, 中央法規, 2015.・ 島内節, 友安直子, 内田陽子:在宅ケア—アウトカム評価と質改善の方法. 東京, 医学書院, 2002.・ Wojiner A. W: Outcome Management Application to Clinical Practice. 2001, 早野真佐子訳, 井部俊子監修:アウトカム・マネジメント. 東京, 日本看護協会出版会, 2003.
評価方法	実習目標の達成度 (60%), 実習記録およびレポート (40%)